

国立大学法人弘前大学・国立大学法人岩手大学  
令和3年度工事入札等監視委員会定例会議議事概要

|                            |   |   |
|----------------------------|---|---|
| 開催日及び場所                    | 令和4年2月17日(木)<br>オンライン会議   |   |
| 委員                         | 委員長 斎藤 千加子(大学教授)<br>委員 角舘 清典(国土交通省工事品質管理官)<br>委員 古川 直磨(公認会計士・税理士)<br>委員 吉村 顕真(大学准教授)            |   |
| 審議対象期間                     | 令和2年4月1日～令和3年3月31日  |   |
| 抽出案件(合計)                   | 6 件   | (備考)<br>抽出案件の個別審議については、別紙のとおり審議を行った。<br>その際、発注大学の担当者から説明を行い、委員からの質問等への回答を行った。 |
| 工事(小計)                     | 4 件   |   |
| 一般競争入札<br>(政府調達に関する協定対象工事) | 0 件   |   |
| 一般競争入札<br>(上記工事を除く)        | 4 件   |   |
| 工事希望型競争入札                  | 0 件   |   |
| 通常指名競争入札                   | 0 件   |   |
| 随意契約                       | 0 件   |   |
| 設計・コンサルティング業務              | 2 件   |   |
| 委員からの意見・質問, それに対する回答等      | 意見・質問   | 回答  |
|                            | 別紙のとおり  | 別紙のとおり  |
| 委員会による意見の具申又は勧告の内容         | 委員会による意見の具申又は勧告の内容は特になし。<br>なお、低入札により工事現場で働く人に皺寄せが無いように、これまでと同様に低入札調査や施工管理を適切に実施することについて発言があった。 |   |

審議案件 1：弘前大学（本町）動物実験施設改修機械設備工事（Ⅱ期）

| 意見・質問   | 回答   |
|---|--|
| <p>○不落随意契約はどのような場合に行うのか。</p>  | <p>○開札は入札説明書等に記載してあるとおり原則 2 回行うこととなっており、不落となった場合は、会計規程に基づき、最高評価値の業者と価格交渉を行うことになっています。</p>  |
| <p>○入札参加者の入札価格が予定価格より高く提示されており、大きな差が生じている理由はどのように考えられるか。</p>                  | <p>○本学が要求する基準よりさらに高度な技術を想定して積算していたと考えられます。<br/>                     なお、今後発注を行う工事について予定価格の見直しが必要か確認するため、契約後に同じ A 等級の業者 2 者から参考見積書を徴取したところ、予定価格と乖離がなかったため、予定価格の積算方法は適正だったものと判断しています。</p> |
| <p>○高度な技術が必要だと思われて、入札参加者が少なかったという理解でよいか。</p>                                  | <p>○その他にも青森県や弘前市の地方公共団体で行われている様々な公共工事に参加していたため、入札参加者が少なくなったと分析しています。</p>   |
| <p>○入札参加者を増やすために工事の宣伝はできなかったのか。</p>   | <p>○年度当初に工事の発注見通しを公表しています。また、契約実績のある業者に入札公告の案内を行い入札参加者ができるだけ多くなるように配慮しています。</p>  |
| <p>○競争参加資格を有する者は何者あるのか。</p>   | <p>○今回は管工事 A 等級及び東北地区に本店、支店又は営業所があることを競争参加資格要件としていたため、一定程度の業者が競争参加資格を有している状況となっています。</p>   |
| <p>○入札辞退者の理由が別の工事を落札したため技術者を配置できないとのことだったが、工事が始まる 7 月は地域的に官公需が多い時期ではないのか。</p> | <p>○発注時期としては早いのですが、地方公共団体の国土強靱化加速化対策等の工事の発注時期と重なったことも入札参加者が少なくなった要因だと考えています。</p>   |

別紙

審議案件 2：岩手大学図書館外壁等改修工事

| 意見・質問   | 回答  |
|---|---|
| ○入札参加者が 7 者から 5 者になった理由は何か。                       | ○ 2 者が入札までの間に他の工事を受注したことにより入札参加を辞退したため、5 者になりました。   |
| ○今回の工事で入札参加者が 7 者というのは普通なのか。                      | ○ 予定価格が 1, 5 0 0 万円規模の工事としては、比較的多く集まっています。  |
| ○落札金額が予定価格と差が無く、落札率が 9 9 . 7 4 % と高い数値になった理由はあるか。 | ○ 落札者の 2 回目の入札金額が予定価格に限りなく近いものであり、不落随意契約交渉に入った 1 回目の見積書提出時は様子を見ながら提出したため、落札金額と予定価格との差が無くなったと考えられます。 |

## 審議案件3：弘前大学（文京町）附属図書館改修電気設備工事

| 意見・質問   | 回答  |
|---|---|
| <p>○落札者は大幅な低入札価格となっているが、低入札価格調査の「その価格により入札した理由」として挙げている4項目について、価格をどの程度下げられるのか確認しているか。</p> | <p>○「①器材・資材」は、電灯設備と動力設備の価格が特に低く、工場製作となる受変電設備は長年取引している業者から安価に入手可能であるため、約1,200万円の低減ができることを低入札調査時に確認しています。</p> <p>「②施工」については、自社の電気工事士や普通作業員等が施工を行うことで労務費の低減が図られたことを確認しています。</p> <p>「③共通仮設費」については、近隣で同様の工事を施工しており、弘前市内に資材置き場があること、「④現場管理費」は自社で施工図・完成図を作成・管理することで、約100万円の低減ができることを確認しています。</p> <p>「④一般管理費」は従業員給与手当、保険料、通信費、福利厚生費等で350万円の低減が可能となったことを確認しています。</p> |
| <p>○低入札価格となった落札者の一方で他の入札者は予定価格を上回っており、入札価格の差が激しいが、様々な要因から入札価格に幅がある工事なのか。</p>              | <p>○落札者は、上記の理由から工場製作する受変電設備や照明設備について大幅な価格低減となり、低入札となっています。</p> <p>また、他の手持工事の時期と重なっているため、資材を一括購入することでも大幅な価格低減が可能になったと考えています。</p>   |
| <p>○下請業者が何社程度入る見込みで予定価格を算出したか。</p>  | <p>○国土交通省「公共建築工事標準単価積算基準」における電気設備工事の積算基準に基づいて予定価格を算出しており、下請業者数は加味されていません。</p> <p>また、火災報知器や情報通信以外の工事はほとんど自社で施工しています。</p>   |
| <p>○国立大学法人は、最低基準価格を大きく下回る場合は点数をつけないペナルティを課す等入札方式の検討はしているのか。</p>                           | <p>○予定価格が一定基準額を上回る場合は特別重点調査を実施し、適切な契約できないと判断されれば契約締結には至りません。</p> <p>また、本学では予定価格2億円以上の場合は、施工体制確認型の入札方式を実施し、施工体制の状況を加味し評価値が高い入札参加者と契約しています。</p>   |

審議案件4：岩手大学（上田）基幹・環境整備（給水設備）工事

| 意見・質問  | 回答  |
|--|---|
| <p>○低入札調査の「その価格により入札した理由」の中でどの項目が価格を下げる大きな要因であるとともに、大体いくら位下げられたのか。</p> | <p>○受水槽の発注は頻繁にあるものではなく、かつ一度に複数台発注となったので、メーカー間の値引き競争が働いて低価格になったと推察されます。受注者の内訳書と予定価格内訳書を比較したところ、受水槽関連の金額に大きな開きがあり、受水槽の価格については約1,000万円の開きがありました。</p> |
| <p>○受水槽の台数を多く注文すると1台あたりの価格が大幅に下がるのか。</p>                               | <p>○上記の理由からそのように推察されます。</p>   |
| <p>○入札参加者すべてが低入札調査基準価格を下回っている中でも金額に差が見られる理由は何か。</p>                    | <p>○入札参加者とメーカーとの長年の取り引き等から値引きに差が出たと推察されます。</p>  |

審議案件 5 : 弘前大学 (文京町) 総合研究棟改修 (理工学系) 設計業務

| 意見・質問  | 回答  |
|--|---|
| <p>○簡易公募型プロポーザル方式では評価点が2位以下の者は入札に参加できないのか。</p>                           | <p>○基本的に最も技術提案書の評価点が高い者と見積合わせを実施し、どうしても価格交渉が折り合わない場合は次点の者と見積合わせを行って価格交渉を行います。</p>   |
| <p>○見積書の提出が5回目で決定したが、何回でも見積書の提出が可能か。</p>                                 | <p>○見積合わせの回数の制限は無いので、予定価格が下回るまで実施していました。</p>  |
| <p>○建設コンサルタント選定委員会のメンバーを教えてほしい。</p>                                      | <p>○施設環境部長、施設環境部施設企画課長、施設環境部整備計画課長、施設環境部環境安全課長、総務委員から委員長が指名する者 (附属病院経営企画課長、人文社会科学部教員)、その他委員長が必要と認めた者になります。</p>  |
| <p>○建設コンサルタント選定委員会に建築分野の専門家は入っているか。</p>                                  | <p>○施設環境部整備計画課長が施設整備事業や施設維持管理等の業務を行っておりますので建築分野の専門家に該当すると考えております。</p>   |
| <p>○簡易公募型プロポーザル方式等の価格以外も評価する入札方式は、丁寧ではあるが発注者が選定までに時間を要し手間がかかるのではないか。</p> | <p>○設計条件が具体的に決まっていれば一般落札方式で対応しているものもあるかと思いますが、今回は発注者から大枠でこのような設計がしたいと意図を提示し、設計事務所からの技術提案に基づいてどの業者が適切か選定する簡易公募型プロポーザル方式を実施することで、手間はかかりますが実施設計の品質も確保できるため、適切であると考えています。</p> |

審議案件 6 : 岩手大学総合研究棟改修 (理工学系) 設計業務

| 意見・質問   | 回答   |
|---|--|
| <p>○技術提案書提出要請者 6 者のうち 3 者の技術提案書を審査したのはなぜか。</p>  | <p>○6 者に技術提案書の提出を要請しましたが、3 者が辞退したため、結果的に 3 者の技術提案書を審査しました。<br/>                     なお、辞退理由については、他の設計業務を落札した理由が 1 者、電子入札システムの手続き上の不備により提出締切日に間に合わなかった理由が 2 者になります。</p> |
| <p>○技術提案書提出要請者 6 者は大学が選定したのか。</p>   | <p>○10 者から本設計業務の参加表明書の提出があり、本学建設コンサルタント選定委員会が提出要請者選定基準に基づき 6 者を選定しました。<br/>                     なお、1 位から 6 位までの点数が僅差で 6 位と 7 位以下に点数の開きがあったため 6 者を選定しました。</p>           |
| <p>○参加表明書提出者は 23 点以上が選定されることはわかっていないのか。</p>   | <p>○選定する得点については公表していません。</p>   |
| <p>○技術提案書辞退者が電子入札システム上の手続きが間に合わなかった理由を具体的に教えてほしい。</p>   | <p>○電子入札システムから提出要請者に技術提案書の提出依頼を行い、提出要請者が電子入札システム上で手続きを行い技術提案書を提出することができですが、その手続きを行わなかったため辞退となりました。</p>   |
| <p>○落札率が 98.19% と高いが、10 者が参加表明書を提出しているので、一般競争入札方式であれば価格が安くなる案件であると思われるが、簡易公募型プロポーザル方式で実施する意義はあるか。</p> | <p>○本設計業務については価格だけで判断できるものではなく、技術提案書の内容が良かった者を選定し、価格交渉を行う簡易公募型プロポーザル方式を実施することに意義があります。</p>   |